

腹部大動脈瘤の新しい治療

外科部長 齋藤 聡



腹部大動脈瘤とは？

お腹の大動脈がこぶのように膨らんでくる病気です。症状はなく検診やほかの病気でお腹の検査をした時たまたま見つかることが多く、通常2cmくらいの動脈が7cmにも8cmにも膨らんでいることもあります。大きくなると破裂しやすく、万が一破裂するとお腹の中に大出血するため大変危険です。この病気でお亡くなりになった有名人にインシュタインや司馬遼太郎さんなどがおられます。

治療法は？

原因は動脈硬化によることが多く薬では治らないため手術が必要です。これまではお腹を大きく切って大動脈瘤を人工血管に置き換える手術が行われていました。手術の成績は決して悪くはありませんが、最近になり少ない体の負担と傷で手術を受けられる「ステントグラフト治療」が登場しました。

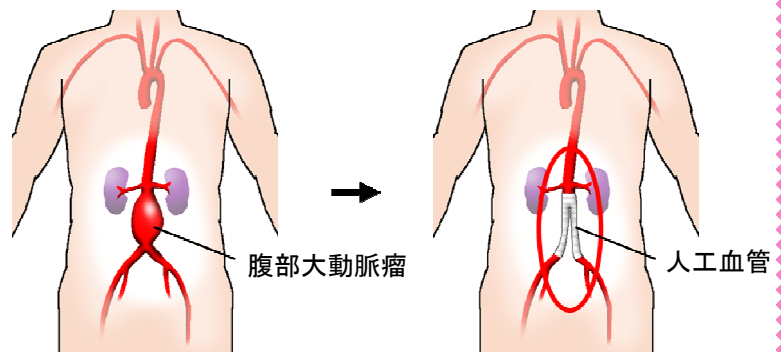


図1 従来の腹部大動脈瘤手術

新しい治療法

足の付け根の小さな傷から動脈の中に管を入れ「ステントグラフト」という特殊な人工血管で大動脈瘤を内側からふさぐという方法です。お腹を大きく切らなくてよいため体の負担が少なくて済みます。新しい治療法であるため認定された施設のみでできる治療ですが、**山口市では済生会山口総合病院でできるようになりました。**

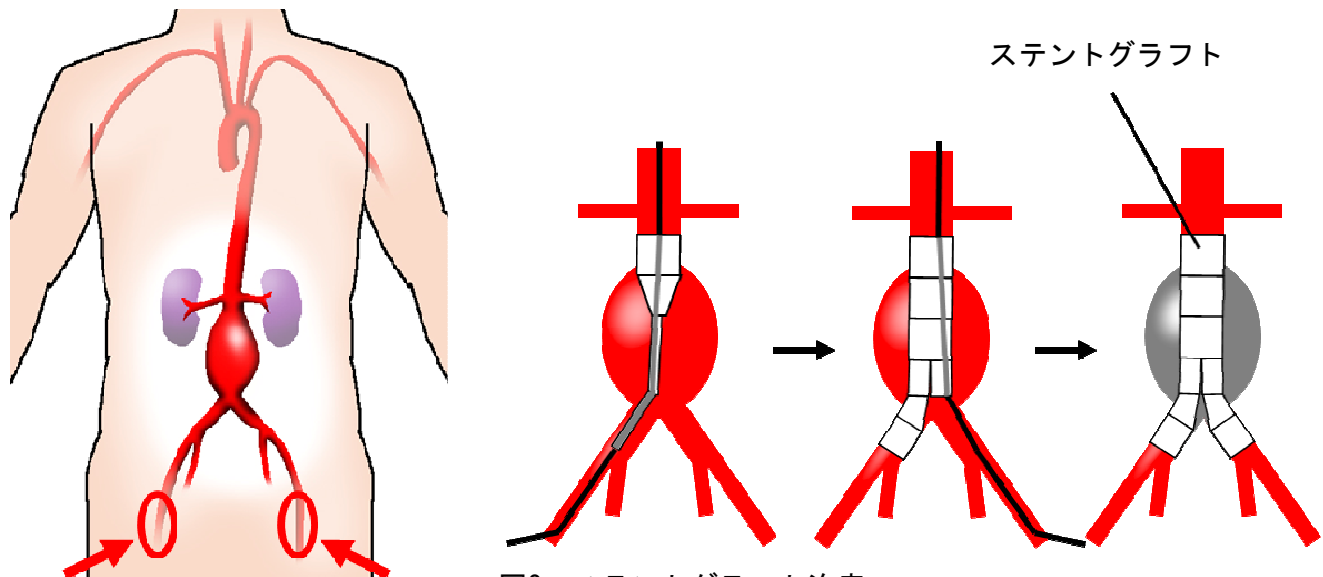


図2 ステントグラフト治療